

令和2年度 第2回 鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会 会議録 (概要)

日 時 令和2年8月28日(金)午後2時00分から午後4時10分

場 所 鎌ヶ谷市役所地下1階 団体研修室

出席者 黒岩史郎会長、菊地謙副会長、江間由紀夫委員、渡辺浩隆委員、松見和樹委員、
松村桂子委員、小川洋委員、山本幸子委員、高木由美子委員、櫻澤美智子委員、
飯高優子委員、西出信夫委員、會澤奈穂子委員、石塚友子委員、三浦健委員、
林宏幸委員(鎌ヶ谷市社会福祉課長)、館岡文委員(鎌ヶ谷市健康増進課主幹)

欠席者 山根清孝委員、金子あかり委員、井手勝則委員、早坂ひとみ委員

事務局 (障がい福祉課)星野里香課長、井上隆課長補佐、中村浩主査補、稲葉もも主事、
鈴木俊雄
(鎌ヶ谷市基幹相談支援センターえがお)渡辺恵美子所長
(相談支援事業所なしねっと)狩野秀二課長、山下弓子
(株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所)新橋明奈、山下淳也

公開・非公開の区分 公開

傍聴者 1名

添付資料

式次第

資料1

- ① 協議会の組織図
- ② 鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会委員名簿
- ③ 障害者相談支援事業・基幹相談支援センターについて
- ④ サポートネット鎌ヶ谷の令和元年度相談実績
- ⑤ なしねっとの令和元年度相談実績
- ⑥ 基幹相談支援センターえがおの令和元年度相談実績
- ⑦ 令和元年度の障害福祉サービス・障害児通所支援等の計画と実績値
- ⑧ 令和元年度の地域生活支援事業の計画と実績値
- ⑨ 計画の概要と期間
- ⑩ 協議会の日程と計画策定スケジュール

資料2

- ・ アンケート調査報告

資料3

- ・ 鎌ケ谷市障がい者施策に関するアンケート調査票

資料4

- ・ <骨子案>第3期鎌ケ谷市障がい者計画
第6期鎌ケ谷市障がい福祉計画・第2期鎌ケ谷市障がい児福祉計画

資料5

- ・ 鎌ケ谷市障がい者地域自立支援協議会「課題収集のためのアンケート」結果

その他

- ・ 鎌ケ谷市基幹相談支援センターえがお 主な相談事例
- ・ 鎌ケ谷市ふれあい収集事業がはじまります！～高齢者・障がい者などのごみ出しを支援～

<本日の傍聴人及び会議の出席状況について>

事務局より、出席者数が会議開催の定足数である「委員の過半数の出席」を満たしていること及び傍聴者が1名であることを報告した。また、資料4<骨子案>表紙の表記2か所を下記のとおり訂正した。

(誤) 令和2年度～令和7年度 → (正) 令和3年度～令和8年度

(誤) 令和2年度～令和4年度 → (正) 令和3年度～令和5年度

<自己紹介>

新型コロナウイルスによる影響で第1回会議を書面会議としたため、対面での会議は今回が今年度初めてとなることから、委員と事務局の自己紹介を行った。

令和元年度の相談支援事業の実績報告について

事務局から資料1を基に、相談事業の実績を報告した。

(1) 障害者相談支援事業(サポートネット鎌ケ谷・なしねっと)

- ・ 障害者相談支援事業・基幹相談支援センターについて
- ・ サポートネット鎌ケ谷の令和元年度相談実績
- ・ なしねっとの令和元年度相談実績

(2) 基幹相談支援センター

- ・ 基幹相談支援センターえがおの令和元年度相談実績
- ・ 鎌ケ谷市基幹相談支援センターえがお 主な相談事例について

会長

感想として、全体数が多いはずの身体障がい者の方や難病患者の方からの相談が少ないように感じた。

令和元年度の「第5期鎌ケ谷市障がい福祉計画・第1期鎌ケ谷市障がい児福祉計画」の実績報告について

事務局から資料1を基に実績を報告した。

- ・令和元年度の障害福祉サービス・障害児通所支援等の計画と実績値
- ・令和元年度の地域生活支援事業の計画と実績値

会長

ただ今の報告についての質疑応答に入る。まず重度訪問介護の対象が拡大されたと思うが、実績や計画相談の数に影響は出ているか。(※)

- ※ 重度訪問介護は、平成26年4月1日から、対象を重度の肢体不自由者に加えて、重度の知的障がい者、精神障がい者に拡大されている。

事務局

直接的な影響が出ているかの把握はできていない。

委員

資料1の12ページ、日中活動系サービスの達成率のように、実績が100%を大きく超えているものがあるが、計画の数字そのものが最初から少なすぎたのではないか。

事務局

ご指摘のとおり計画を大きく上回る実績になっているものもあるので、次期計画の策定にあたっては現在の実績の傾向を反映させていきたい。

委員

情報提供になるが、資料1の13ページ、(3)①共同生活援助(グループホーム)の達成率が17.4%になっている。平成30年度と令和元年度で鎌ケ谷市のグループホームは6事業所増えた。今後も空き家などを活用したグループホームが増えていくことが予想される。

アンケート調査結果報告

事務局から資料2・資料3を基に結果を報告した。

- ・アンケート調査報告
- ・鎌ケ谷市障がい者施策に関するアンケート調査票

会長

アンケートの結果についての質疑応答に入る。ご質問はあるか。

委員

本日の資料では単純集計のみであるが、クロス集計の結果もこの場でも出してもらいたかった。単純集計では回答者の半数以上が65歳以上で、障害者手帳の種別では身体障害者手帳が65.8%を占めている。高齢で身体の障がいをお持ちで、かつご家族から支援を受けている方にデータが偏っていて、これだけでは障がい者支援の問題を把握できない。

事務局

ジャパン総研がある程度までクロス集計をしているが、本日その資料をお示しできず申し訳ない。形を整え郵送等でお送りしたいと思う。順次集計結果を計画の検討に使えるよう対応したい。

委員

アンケートの調査・回収方法から見直して、65歳以上の方、65歳未満の方の回答を分けて集計できるようにすべきだ。障がい者支援と高齢者支援では問題が異なる。これからの生活を作っていく方と、これまで作ってきた生活を守っていく方という違いがあるので、単純集計が独り歩きしないように注意いただきたい。

「第3期鎌ヶ谷市障がい者計画」・「第6期鎌ヶ谷市障がい福祉計画」・「第2期鎌ヶ谷市障がい児福祉計画」の骨子案について

事務局から資料1・資料4を基に骨子案の説明をした。

- ・計画の概要と期間
- ・＜骨子案＞第3期鎌ヶ谷市障がい者計画
第6期鎌ヶ谷市障がい福祉計画・第2期鎌ヶ谷市障がい児福祉計画

会長

骨子案についての質疑応答に入る。ご質問はあるか。

副会長

資料4の15ページから、全国的な動向として社会福祉法の改正があり、分野横断的な相談支援の重要性が示されていることがわかる。社会福祉分野に限らず、このような包括的な相談支援について鎌ヶ谷市では何か議論されているのか。

事務局

鎌ヶ谷市では今、地域福祉計画を同時期に策定している。その中で包括的な相談支援体制等についても検討していくことになると思う。

会長

障がい者福祉・児童福祉、高齢者福祉などの分野横断的支援には、権利擁護に関する部分、特に成年後見の利用促進なども関わってくるという理解でいいか。

事務局

成年後見制度もひとつの大きなテーマだと考えている。

委員

資料4の19ページ下部「これまでの市の取り組み」、「防災体制の充実」に、「避難行動要支援者が災害時に地域内で避難支援を受けられるよう、避難行動要支援者名簿の更新を通じた地域での支援体制づくりに努めています。」とある。避難行動要支援者名簿と個人情報保護との関係について教えてほしい。

事務局

災害発生時に備えて自治会等に情報を提供してもよいと承諾してくださった方だけが登録され

ているので、個人情報保護上の問題はないと思う。

事務局

高齢者、要介護者、障がい者(※)、独居といった条件で該当する方を市で抽出し、避難行動要支援者名簿を作成している。それに基づいて避難の支援が必要かを郵送で確認し、併せて支援が必要な方には、自治会や自主防災会等に情報を提示してもよいか同意を得ている。同意した方のリストを作成したら、各自治会に名簿の受領をお願いしている。個人情報保護の観点から名簿受領の際には自治会と市が協定を締結し、名簿の保管方法等について取り決めもしている。名簿の更新は年に一度行い、転入者やまだ回答をいただけていない方に郵送でお知らせしている。

※ 障がい者の対象者は、①身体障害者手帳1級、2級、②療育手帳マル A 又は A、③精神障害者保健福祉手帳1級のいずれかの交付を受けているもの。

委員

その名簿に基づいて災害時に避難誘導を助けるのは自治会ということでよいか。

事務局

そのとおりである。同意者名簿を自治会が受け取った後は、名簿の方と誰がどこに、どうやって避難するのかを各自治会内で取り決めて、書類を作成して市と情報を共有することになっている。昨年度からこの取り組みを始めたが、まだ103ある自治会のうち15の自治会しか名簿を受領していただけていない。自治会連合協議会を通して名簿を受領していただくよう声がけをしている。

委員

避難とは人の命をお預かりして避難所まで誘導することである。健常者との避難とは違って特殊な技術や体力が必要だから、素人の自治会員だけでは責任を持ってないし自信もないと言っていた自治会長がいた。自治会の中にスムーズに避難するための専門の方がいたほうがよい。自治会だけに頼るのではなく、避難誘導を専門にできるような方を普段から養成してはどうか。

委員

自治会の皆様が被災して支援できない可能性もあることは、同意した方にも事前にお伝えしている。これまでの大規模災害を見ても、災害発生時にすぐ市の職員などが助けに行くことはできなもので、まずは地域の皆様の手で、身近にある助かる命を少しでも多く助けていただきたいと考えている。地域の皆様のご協力を得ながら防災対策を進めたい。

委員

今後も自治会連合協議会と話し合いながら進めていただきたいと思う。

委員

資料4の17ページに「グループホームについては、年々増加しており需要を満たしている状況」と記述があるが、増加傾向にある精神障がい者が希望するのは、ワンルームタイプのグループホームで、先ほどお話した、令和30年度、令和元年度で増えた6事業所のグループホームは全てが戸建てや共同で暮らすスタイルであり、ワンルームタイプはない。精神障がい者のグループホー

ムの需要を満たしているとは言い切れない。ワンルームタイプのグループホームを作るには空室が5部屋(居室が4部屋、共有スペースが1部屋)必要なため、物件を見つけるのが難しい。習志野圏域では八千代市と習志野市には既にワンルームタイプのグループホームがあるので、残る鎌ヶ谷市でも充実させていければと思っている。

会長

バリアフリーの広いスペースや車いす用トイレに対応するには新築のほうが都合がよいため、身体障がい者向けのグループホームも増えていない。空き家の一軒家を転用してグループホームを作っても身体障がい者向けにはならない。障がいの種類によってはグループホームの数は足りていないので、表現を少し検討してほしい。

副会長

資料の「基幹相談支援センターの主な相談事例」を読むと、かなり包括的で様々な分野に横断した相談を受けているようだ。身体障がいをお持ちの方の高齢化を考えれば、障がいの分野だけではなく高齢の分野との連携も必要なケースが多いと思う。例えば基幹相談支援センターと地域包括支援センターが具体的に連携をしていくような方向性等はあるのか。

事務局

基幹相談支援センターと地域包括支援センターとが、包括的な相談支援を行うため連携していくという方向性はもちろんある。既に高齢者と障がい者が同居しているご家庭のケースなどでは連携を行っている。

副会長

今回の計画の中で、定期的な協議会を作るなどの具体的な検討はしていないのか。

事務局

具体的な検討はこれからになるので、その点も検討していきたい。

会長

地域包括支援センターの関係者も障がい者支援の関係者もお互いにかなり情報が不明確なことがある。松戸市のように、地域ごとに関係者が集まる定期的なワークショップのようなものがあると非常に助かるのではないかと。

委員

私達の団体(障がい当事者によって構成された団体)が実施した防災アンケートでは、避難所まで行くことが難しく、避難所へは行かないという声がほとんどだった。また、本人だけでなく介助者も高齢なので、支援物資を避難所に取りに行くことも難しく、自宅に届けてもらえるか不安に感じている。もっと考慮してもらえたら助かる。

会長

市によっては社会福祉施設をあらかじめ支援の拠点にして、そこに一度集合するやり方をとっているところもあると聞く。鎌ヶ谷市も今後本格的に障がい者の避難の対応について考えていかなくてはならない。

委員

避難支援計画については期待している。知的障がい者は日中の避難には事業所の支援員等と協力して対応できると思うが、それ以外の早朝等の避難には不安がある。家族と同居の方が多いので一緒に避難することになると思うが、一般の方と同じ場所だと迷惑になるのが心配なので、身近な場所に安心して避難できる福祉避難所をつくってもらいたい。

会長

今の地域防災の考えは自治会が軸になっている。避難行動要支援者名簿についていえば、その対象から社会福祉施設とグループホームは外れており、自治会のフォローも期待できない。グループホームは自分達で避難しなくてはいけない。自前で電源設備などを用意していくことも必要だと考えている。

委員

資料2の20ページ(問42の23)のアンケート回答によると、移動支援事業について「利用中又は利用経験あり」が30件で2.9%。24ページでは同事業を今後3年間で「利用したい」という回答が105件で10.2%ある。実績30件に対し105件が利用したいという需要の増加が見える。

地域の障がいへの理解を促進するためにも障がい者の社会参加が重要になる。移動支援の事業所が身近な場所で増えれば、利用者も増え、障がい者の社会参加は地域の障がい者への理解を促進することになると思う。移動支援の利用促進につながる計画づくりをお願いしたい。

会長

計画の実績値で見ても高い数値が出ているので、その点についても考えていただきたい。次回は骨子案の第3部の具体的な中身の検討になる。質疑応答はこれで終了する。

その他

事務局から資料1・資料5を基に説明を行った。

- (1) テーマ別チームの編成作業について
- (2) 「オンライン会議運営人材育成プロジェクト」について
 - ・協議会の組織図
 - ・鎌ケ谷市障がい者地域自立支援協議会「課題収集のためのアンケート」結果
 - ・鎌ケ谷市ふれあい収集事業がはじまります！～高齢者・障がい者などのごみ出しを支援～

会長

最初に「オンライン会議運営人材育成プロジェクト」を進めることについて賛同される方は挙手をお願いしたい。

(全員が賛同)

会長

次にテーマ別チームの編成と、資料5の「課題収集のためのアンケート」に関してご意見を伺いたい。まず私が申し上げたいのは資料5の19ページ、20番・障がい者団体のご意見についてで

ある。「一番残念なことは、各チームが出し合っている意見を、上にある協議会ではどのように議論をしてまとめているのかわからない。」、「各チームのまとめは送られてきたが、協議会の内容もまとめて提出していただければ進行状況もわかり、今後の各チームのテーマも変わってくるのではないか。」、「各チームのテーマがわかりにくい、もっとシンプルにわかりやすくできないか。」という指摘は非常に重要なので今後の参考にしてほしい。限られた時間で一番避けたいのは議論が抽象化して焦点が合わなくなることだ。今後は各チームからの報告に対する本会議の意見を文章化して全員の共通認識にしたい。1年ごとに年度末に本会議の整理も行い、到達地点や課題を確認する。逐次チームと本会議間で両方向に話し合い、整理しながら今年度は進めたいと考えているので、ご協力をお願いしたいと思う。その他にご意見がなければ、全ての議事をこれで終了とする。

事務局

最後に今年の10月1日から始まる「鎌ヶ谷市ふれあい収集事業」についてご紹介する。高齢や障がいのために自分でごみを出しに行くことが困難な方は、事前に申請すれば市の委託業者が個別に回収に来てくれる制度だ。詳しくは本日お配りしたチラシで確認していただき、ごみの収集でお困りの方いたらこの事業をご紹介いただきたい。

会長

長時間にわたる議論に感謝申し上げます。本日の会議はこれで終了とする。

閉会

以上、会議の経過を記録し、相違ないことを証するため次に署名する。

令和2年9月15日

氏 名 飯高 優子 _____

氏 名 櫻澤 美智子 _____